

世界で一番幸せな美しい島

新潟大学附属新潟中学校3年 福井 愛朝

「All's right with the world.」

私は昨年夏、小説「赤毛のアン」の舞台であるカナダのプリンスエドワード島を訪ねた。島在住のメイソン夫妻に案内をお願いした。島は小説に描かれたとおりの美しい島であったが、何よりもメイソン夫妻をはじめ、島の人たちの温かさにふれられたことは嬉しいことであった。冒頭の英文は、小説の最後でアンが、義父が亡くなったことにより夢であった大学をあきらめ、義母のため、家の近くの学校の教師になるという新しい夢に向かって走り出す時の言葉である。「きっと全てうまくいく。」という意味である。私は旅行中ずっとアンという言葉と島の人々の姿を重ねながら過ごしていた。プリンスエドワード島は、決して夢の国ではない。日本人と同じく、島の人々も生活のため、毎日一生懸命働いている。しかし、私たちより幸せそうに見えた。

「カナダでは、医療費と幼稚園から高校までの学費は全て無償なんです。」

メイソンさんの言葉に驚いた。しかし、その理由が分かった。カナダでは消費税が、国税と州税、それを併せたHSTという三種の税がある。プリンスエドワード島州では、HSTを導入しており税率十五パーセント。日本に比べてかなり高い。大抵外税のため、買い物をした思ったよりも高額になってしまうということがよくあった。しかし野菜など、毎日の生活に必要なものには税金はかからない。私は消費税の意味を改めて考え直した。島の人にとって、消費税は自分に返ってくるお金であると同時に、社会の人に還元されるお金なのだ。自分の生活にちょっと潤いがほしいときに、同時に他の人もちょっと幸せにできるお金なのだ。それを島の人たちは知っていた。このようなお金の使い方もあるのだ。

私の祖母は、佐渡で小さな小売店を営んでいる。この春より、新型コロナウイルスの影響で、お客が激減した。売り上げが減少し、生活も苦しくなった。その時救ってくれたのが、特別給付金の十万円だ。人によってはたかだか十万円かもしれないが、祖母にとってどんなにありがたかったことか。このお金も税金から賄われている。

脳科学者の茂木健一郎さんは、赤毛のアンは希望の物語だという。希望は人と人のつながりによって紡がれ、人を勇気づける。税金も本来同じ役割があるのではないか。人は税金によっても繋がれるし、助け合える。私は来春高校受験に挑戦する。私の目指す高校もまた多くの税金によって支えられている。

「All's right with the world.」

人生もきょううまくいく。なぜなら助けてくれる多くの人がいるから。そして、私も誰かを助けられる「多く」の一人だから。

私はアンのおふろさと、プリンスエドワード島の人々が私たちより少し幸せに見えた理由が分かったような気がした。